

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491400067		
法人名	社会福祉法人 安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブむさし苑		
所在地	大分県国東市武蔵町系原2368-2		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

総合記録表を記録する事で、ご利用者個人個人の状態をトータル的に把握がしやすく、支援に生かされている。誕生日のその月には、その方を対象に昼食や夕食の夕食支援を行っている。また、焼き肉パーティーなども行い、家庭らしさを大切にしながら支援を行っている。近くのこども園に出掛けてこどもとの触れ合いや、地域のお店に買い物に出掛けたりしている。外出の際、ご利用者が友人に会われる方もおられたりし、地域の皆さんとも馴染みのある関係が切れなような支援にも力を入れている。職員もそれぞれの得意分野に合わせて(パソコンが得意な人・レクリエーションが得意な人・料理や工作・折り紙が得意な人等)役割分担を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域との関わりや馴染みの関係が途切れないよう継続することを大切に、ふるさと訪問や地域の店での買い物、こども園訪問、地域の行事や祭りなどの外出支援等で地域の人や馴染みの人たちとの触れ合う機会を設けている。
- ・理念の「一人ひとりの一瞬の輝きを見出すために……」を実践している。寄り添う支援をしている。
- ・排泄ケアでは、薬に頼らない自然排便を促す支援を実践している。食事(玄米・ヨーグルト)腹部マッサージ、運動など。また、全てのトイレにファンレストテーブルを設置している。
- ・人事考課制度を導入している。また、エルダー制度も設けており新人教育ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は毎朝の全体朝礼で唱和しており、法人の理念を下に各部署の方針を掲げている。GHでは「私達はご利用者の一瞬一瞬の輝きを見出すために地域と共に歩んでいきます」を皆で考え、実践に繋げられるように努めている。	法人の理念を毎朝全体朝礼で唱和し、法人の理念を基に皆で考えた事業所の理念「私たちはご利用者の一瞬一瞬の輝きを見出すために地域とともに歩んでいきます」をスタッフで確認し、相談室に掲示し、実践につなげている。ワーカー日誌にも理念が掲載されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回、こども園を訪問し交流を行っている。また地域のお祭りや行事などにも積極的に参加し、地域の文化祭では作品の出品を行っている。買い物支援もなるべく地域の店を利用するようにしている。	地域の祭りや行事、こども園訪問、商店街へ買い物に行くなど積極的に地域との交流を図っている。今年は作品展の出展やカラオケ出場の依頼や、地域のお店の人も認知症の方の支援方法の理解があり、利用者の買い物支援につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と一緒に地域の行事やお祭りへ参加し、またGH周辺の散歩や買い物をし、認知症の方への支援の方法や症状について少しでも理解が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議で、毎月ご家族向けに発行している日常生活のわかる便りを、会議出席者に配布している。またパワーポイントを使用し活動内容や取組を発表し、質問や意見等を受けながらサービスの向上に生かしている。	2ヶ月に一回の運営推進会議で利用者の生活が分かる毎月発行の便りを出席者に配布している。また、パワーポイントを使い、グループホームの活動や取り組み状況を報告し、質問や意見はサービスの向上に活かしている。出席者から地域行事等の情報提供がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員2名が運営推進会議に出席して下さっており、実情を伝えている。また日頃から不明な点や質問等について市に連絡し返答をいただいている。	市から2名の参加がある。運営推進会議で事業所の取り組みや実情を報告し、市から情報提供やアドバイスをもらっている。不明な点等あれば問い合わせするなど情報の共有と協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施しており、職員は必ず出席し報告書を提出している。またホームの施錠についても記録をとっている。基本は8時から17時まででは開錠すると決めており、毎月の開錠率は100%を超えている。	毎月身体拘束の研修を行っており、全職員報告書を提出、記録している。基本身体拘束をしないケアを理解しており、玄関の施錠をせずに見守り等でケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり、個々の職員が虐待と思われることについてまとめ、それを勉強会の場で報告している。また、ISO9001の部門目標のアクションプランの中で、毎月不適切な介護チェック表をつけ集計し、職員間でお互いに注意しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネは法人のケアマネ勉強会にて学ぶ機会があるが、他の職員は学ぶ機会はあまりない。しかし、毎年4月の全体会議で理事長が権利擁護、倫理規定、守秘義務と言ったご利用者の権利擁護について説明、啓発活動を行っている。成年後見人制度については、活用したケースがなく今後学んで行く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が不安なく契約できるように分かりやすく丁寧な説明を行っている。特にご家族の不安や疑問には十分な聞き取りを行い、いつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族会を含めた忘年会を行っており、その場でご家族より意見をいただいている。また月に1度、第三者委員の来苑があり、ご利用者への聞き取りや現場の様子等の指導もある。	月に1回、第三者委員の利用者への聞き取りや現場の状況等の指導がある。また、年1回の家族会を含めた忘年会や家族アンケートを実施しており、出された意見要望は運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一月曜日にGH会議を行っており、その中で職員が意見を出し合っている。また、個人面談があり必要書類に意見等を記入し面談を行うようになっている。必要書類は必ず施設長に提出するようになっている。	毎月第一月曜日のグループホーム会議にて、職員は意見要望を出している。また、年2回個人面談があり、意見や提案を聞く機会を設けており、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績効果表を年2回行っており、個人面談も行いそれぞれの意見を聞く機会を設けている。また面談で個人目標を立て、それがやりがいとなり向上心を持って仕事ができるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはエルダー制度(3ヶ月間ま)を設けており、マンツーマンでの指導が行える。また毎月他部署との合同の内部研修があり、様々なテーマの勉強会が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県のGH・小規模多機能合同の職員研修会を2ヶ月に1度行っており、各施設の事例発表やグループ討議を行っている。また地域ケアネットやホットネット等でも他事業所との交流の場があり、情報交換等が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に遠慮がちなご利用者に対しては、日々の様子や1対1のコミュニケーションを通して不安な事や要望などをさりげなくみ取るようにしている。要望等は可能な限り叶えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に面会時等の際に、ご本人様の様子をお伝えするとともに、ご家族の想いや要望等を聞くようにしている。またご家族の不安がないように日々の様子がわかる便りを毎月発行し、遠方のご家族には手紙を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を第一に考え、会議等でその時々重要とされるサービス提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をするという立場だけでなく、生活を共にする中で個々の能力を見極め、その方の得意な事が生かせようとしている。また裁縫や料理等、教わる事が多く職員がご利用者を頼りにする事もあり、持ちつ持たれずの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外泊・外出に加え、遠方のご家族には電話をしたり、手紙を書いている。毎日面会があるご家族や散髪を下さるご家族・入浴を下さるご家族もおり、家族と過ごされる時間を大切にしている。また職員・ご家族が共に相談しあう関係も築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に2~3回、ふるさと訪問で自宅の様子を見たり、墓参りをしたり、以前働いていた職場やご本人にゆかりのある場所へ出掛けるように努めている。ゆかりの地でご友人に会われる事も多く互いに喜ばれている。	月に2~3回、故郷訪問で自宅や墓参り、以前働いていた職場へ出かけるなど、知人友人に会う機会を積極的に作っている。馴染みの場所や関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異性間の問題や性格の合う合わないがあり、そういった関係を把握した上で食事の席や外出ペアなど考慮して支援するように努めている。またレクリエーション等を通じてご利用者同士が関わりあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設への入所であればGHのご利用者と一緒に面会へ行き馴染みの関係を断ち切らないようにできているが、永眠された方のご家族との関係はどうしてもそこで終了してしまうため、今後の課題でもある。ただご家族には何かの縁なのでと関係が切れないように声掛けは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションや行動等より思いをくみ取れるように努めている。またその想いも可能な限り叶えられるよう努めている。	日々の関わりの中で表情や会話の中から思いや意向をくみ取っている。表現することが難しい方は理念の一瞬一瞬の輝きを大切にを基に表情や行動などからくみ取るよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入所時にご家族より情報をいただいております。その他の情報もご本人との会話等から情報を得ている。その情報をもとに現在の状況と照らし合わせ支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録より生活リズムを把握し、朝・夕のバイタルチェックで身体管理を行い、健康に過ごせるように努めている。またご利用者一人ひとりの能力を引き出せるように固定観念にとらわれず様々なアプローチを行い、できる力を発見している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のGH会議で職員・施設長・施設長代理・看護師等とカンファレンスを行い、担当者はご家族にも電話や来苑時等に要望を聞いて計画書を作成している。	毎月のグループホーム会議で職員と一緒にモニタリングを行っている。担当者は家族の要望を聞き日々の記録から気づきや変化をケアに活かせるよう会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。見直しを、3か月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録やワーカー日誌に日頃と違う様子や新しい発見を記入したり、情報の共有を行いケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては可能な限り柔軟に対応しており、併設している特養なども協力しサービスの提供を行っている。またその時々に応じて事業の拡張などもできている(特化型デイサービス)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オープンして3年になるが、地域行事等に積極的に参加したことで少しずつではあるが交流がスムーズに行われている。特に地域の文化祭には毎年、ご利用者の作品を出品しており、地域の方にも期待されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人個人で主治医が違っており、入所前から受診している病院を継続されている方がほとんどである。また急な発熱等でご家族が付き添えない場合は、病院と連携をとり臨機応変に対応している。	ほとんどの方が、入所前からのかかりつけ医を継続して受診している。急な発熱など家族が受診対応出来ないときは往診もあるなど、各医療機関との連携もよく取れており、事業所との関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師だけでなく、併設の特養の看護師にも毎日の状態報告を行うようにしており、情報を共有することで急変時等にはすぐに対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	国東市民病院の医療連携室と連絡を取り合い、状態等の情報をいただいたり、面会時にも病棟看護師より詳しく話を聞けるように段取りもしていただいている。また病院の看護師が毎年実習に来られ、互いの要望や施設の在り方など話せる機会もあり、顔見知りになる事で相談もしやすい関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設してから現在までターミナルや重度化対象の方はいないが、そのような場合は法人の看取り指針に沿って対応していく。またご家族とも密に連絡を取り合い話し合いを重ねていき、支援に取り組んでいく。またターミナルについての勉強会もあり、学んだ事を生かせるようにしていきたい。	重度化や看取りにつて文書化しており入所時に説明している。これまで対象者はいないが、重度化や看取りについては法人の看取り指針に沿って対応する体制が整っている。また、職員は法人の看護師を講師に看取りの勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で介護勉強会があり、その中に緊急時の対応について学んでいる。看護師が講師となり、AEDや酸素等の取扱いなどの実技もあり、実践にそなえて生かせるように訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練や、地域の消防団と合同で避難訓練を行っている。H28年12月4日には消防署・消防団の方々と車椅子等の使用方法や、実際の通報訓練・避難誘導訓練の様子を見ていただき意見をいただいている。	地域の避難場所になっている。消防署・消防団合同で消火訓練・避難訓練を行っており、地域の協力体制も築けている。提案事項にあった車いすの使用方法などを実施している。日頃から職員で通報訓練や避難経路の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分に配慮しており、常日頃から気を付けている。声掛け等についても個々の性格がありその方の人格を尊重した声掛けに努めている。	接遇の研修を行っており、個々人を尊重した声掛けに配慮し対応に努めている。また地元の慣れ親しんだ言葉でも節度ある言葉や同じ目線などを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知度が軽い方は食事アンケートをとり希望を聞いたりしている。食事のメニューについても今日は何が食べたいか聞いている。入浴や外出・レクリエーションの参加など、普段から自己決定してもらう事はできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを把握しており、その方に合った支援を行えている。また認知度が軽い方は希望を聞いているが、認知度が重度な方や行事や対応困難者の対応に追われる際は、職員側の都合を優先せざるをえない時があるが、きちん都度説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でお化粧をされたり、色の組み合わせを考えて衣類を重ね着されたりする際、一緒に洋服を選んだりしている。お化粧やフェイスマッサージやヘアアレンジも必要に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑でできた野菜を収穫し、その野菜と一緒に調理を行ったり、焼き肉パーティーや特養と合同で秋はサンマパーティーを行ったりしている。外食では屋食だけでなく夕食時にも外食に行ったりしている。食器洗いも1名のご利用者が役割を持って毎食後行ってくれている。	一緒に収穫した野菜を調理したり、焼き肉パーティーやサンマパーティーを行事に組み入れたり、外食に行くなど、食事が楽しめるよう工夫している。また、配膳や食器洗いなど職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた1日に必要な水分量を出して補水を促している。また体重の増減や食べれる量に合わせても食事量を調節している。毎月、栄養士にGHの食事の栄養バランスを計算してもらいコメントをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨ける方には声掛けを行い、最後は磨き残しがないかチェックし、ケアの必要がある方は介助を行っている。歯間ブラシや舌ブラシが必要な方には個別に対応している。また特養に歯科衛生士がいるため、必要時は状態を診てもらい、Drにも連絡をしてもらい連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合記録表より24時間の排泄パターンを把握し、失敗のないようにその方に合わせたトイレの声掛け・誘導を行うことで、パットの使用量も減りトイレでの排泄ができるよう努めている。	総合記録表より排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。オムツ使用者はおらず、自室トイレでの排泄を促すなど、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米食やオリーブオイル・乳製品の提供をしている。食事面だけではなく、腹部マッサージや運動も取り入れ便秘の改善に取り組んでいる。水分量にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は毎日午後からとなっているが、ご利用者の希望に合わせて午前でも都度入浴できるようになっている。数種類の入浴剤を用意しており季節や気分に合わせて使用している。柚子湯や菖蒲湯なども行っている。	入浴は、利用者の希望やタイミングに合わせて毎日、午前でも午後でも入浴できるよう対応している。入口には大きな♾マークの暖簾をかけ、入浴剤で温泉気分が味わえるようにしている。また季節湯(菖蒲、ゆず)が楽しめる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間によく眠れる範囲で午前・午後に1~2時間程度昼寝をされる方や、夕食後にスペースでTVを見られたり職員と談笑されたり、塗り絵等される方、また眠くなるまで居室でTVを見て過ごされる方など様々である。天気の良い日はなるべく日の光をあびるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋のファイルがあり、処方の変更時は日誌に記入し変更になった日の状態変化等も分かるようにしている。詳しい副作用についてもインターネットで調べたり薬剤師に確認したりし、半減期についても調べる事もある。また必要性のなさそうな薬はDrに相談し、薬が減った方もい		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かし、得意な事は自立またはサポートしながら日常生活の中に取り入れている。ご利用者の状態や性格に合わせ苦手な分野でも出来た時の喜びを持っていただける支援を行っている。特に塗り絵や学習が上達された方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や盆踊り・お祭りやイルミネーションを見に行ったり、外食(昼食・夕食)や観劇・ドライブや初詣などに出かけている。ふるさと訪問も行っており、墓参りなどをされる方や家の近所の方と交流をされる方もおり、外出を楽しみにされている。	ふるさと訪問や商店街へ買物・近隣への散歩に出かけたり、地域の行事、祭り、外食(昼食・夕食)、子ども園訪問(月2回)、ドライブ、観劇、初詣、など多くの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っているが、買い物支援などの際はご自分で支払っていただいたりしている。中には職員作成のお金を持ち喜ばれる方もおり、お礼でそのお金を職員に配られたり、外出先で店員に支払い喜ばれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話はいつでもとりつけ、また往診結果や日常の様子などGHからご家族に電話をかける事も多く、その際にご本人と変わりご家族とご本人が話される事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にスペースや玄関のディスプレイを変更したり、風呂場は温泉マークで分かりやすくし、キッチンも対面式で調理の様子も見れ、家庭らしさを大切にしている。	適切な室温・湿度に保たれている。玄関など共用空間には、季節を感じられる花や作品が飾られている。廊下は小さい作品を飾り利用者の部屋の目印になる工夫もある。対面式キッチンで調理の音や匂いで五感の刺激を受けるなど生活感があり、家庭的な居心地の良い空間になるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは食事の際の席は決めているが、それ以外の時間は自由に好きな場所で過ごされている。新しく入居された方がいる場合や、ご利用者同士の折り合いが悪い日は必要に応じて都度、席替えを行っている。また玄関のソファや外のテラスでくつろがれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVや家具・布団等を持ち込んでおられる方や、ご主人の遺影の持ち込まれている方もおり、お茶やお菓子をお供えされる方もいる。ご家族が面会にいらした際は写真を撮り居室に飾っていただいたり、ぬいぐるみを置かれている方もおられる。	馴染みのある家具や使い慣れた品を持参しており、家族写真やぬいぐるみ、自分の制作した作品を飾り、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの開閉が分からない方には開閉の仕方を貼り紙で表示したり、ヒヤリハット等を生かして安全に生活席できるように支援している。また、お茶の入れ方が分かる方は、自由にお茶が飲めるようにしていたり、できる方はご自分の洗濯物は自分でたたんでいただいている。		